SONY®

3-865-825-**02**(1)

TV(1-12ch)/FM/AM ラジオ ICF-R50V
TV(1-3ch)•FM/AM ラジオ ICF-R40

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

主な特長

- イヤーレシーバーの自動巻き取り装置内蔵。
- 選局に便利な同調インジケーター搭載。
- 電車内など、雑音が気になるときに雑音を低減して放送を聞きやすくする回路を搭載しています。―ノイズカット機能
- 節電のため自動的に電源を切ることができます。
―パワーオートオフ機能

使用上のご注意

取り扱いについて

- 落としたり、強いショックを与えたりしないでください。
故障の原因になります。
- 次のような場所には置かないでください。
— 温度が非常に高いところ（40℃以上）や低いところ（0℃以下）。
— 直射日光のあたる場所や暖房器具の近く。
— 風呂場など湿気の多いところ。
— 窓を閉めきった自動車内（特に夏季）。ほこりの多いところ。
- ラジオの内部に液体や異物を入れないでください。
- 汚れたときは、柔らかい布でからぶきしてください。
シンナーやベンジンは表面をいためますので使わないでください。
- キャッシュカード、定期券など、磁気を利用したカード類をスピーカーに近づけないでください。スピーカーの磁石の影響でカードの磁気が変化して使えなくなることがあります。
- 耳をあまり刺激しないように、適度の音量でお楽しみください。
- 別売りのモノラルイヤーレシーバーをお使いになるときは、常によい音でお聞きいただくために、モノラルイヤーレシーバープラグをときどき柔らかい布でからぶきし清潔に保ってください。
- このラジオのテレビ音声受信回路は、FM放送の受信回路と兼用であるため、一部の地域では、テレビ2、または3チャンネルの音声を受信中、FM放送が混じって聞こえることがあります。このときは、テクニカルインフォメーションセンターまたはソニーサービス窓口にご相談ください。
- 交通安全のため、自転車やバイク、自動車などを運転中はご使用にならないでください。
- イヤーレシーバーをご使用中、肌に合わないと感じたときは早めに使用を中止して医師またはテクニカルインフォメーションセンター、お客様ご相談センターに相談してください。

万一故障した場合は、内部をあけずに、テクニカルインフォメーションセンターまたはお買い上げ店、ソニーサービス窓口にご相談ください。

主な仕様

受信周波数	TV: 1〜12チャンネル*1 FM: 76〜108MHz（TV1〜3チャンネル*2） AM： 530〜1,605kHz
スピーカー	直径約2.8 cm、丸型7.2Ω 1個
出力端子	◎端子（ミニジャック ø3.5 mm）1個
実用最大出力	80 mW（JEITA*3）
電源	DC 3V、単4形乾電池2本
パワーオートオフ機能	約80〜150分
最大外形寸法	約55 × 91 × 16.5 mm（幅/高さ/奥行）（JEITA）
質量	約80 g（乾電池含む）

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

*1 ICF-R50Vのみ
*2 ICF-R40のみ
*3 JEITA（電子情報技術産業協会）規格による測定値です。

付属品

ソニー単4形乾電池（2）（お試し用*）
キャリングケース（1）
取扱説明書（1）
保証書（1）
ソニーご相談窓口のご案内（1）

* 付属の乾電池はお試し用です。購入する場合はソニーアルカリ乾電池をおすすめします。

保証書とアフターサービス

保証書

- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より１年間です。

アフターサービスについて

調子が悪いときは
この説明書をもう１度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときは
テクニカルインフォメーションセンターまたはお買い上げ店、添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は
修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではラジオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後6年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、テクニカルインフォメーションセンターまたはお買い上げ店、ソニーサービス窓口にご相談ください。

ご案内

ソニーではお客様技術相談窓口として
「テクニカルインフォメーションセンター」
を開設しています。
お使いになってご不明な点、技術的なご質問、故障と思われるときのご相談は下記までお問い合せください。

テクニカルインフォメーションセンター
電話：048-794-5194
受付時間：月〜金　午前9時から午後6時まで
（祝日、年末年始、弊社休日を除く）

ご相談になるときは次のことをお知らせください。
- 型名
- ご相談内容：できるだけ詳しく
- お買い上げ年月日

http://www.sony.co.jp/

ソニー株式会社　〒141-0001 東京都品川区北品川 6-7-35

お問い合わせはお客様ご相談センターへ
- ナビダイヤル……………… 0570-00-3311
（全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます）
- 携帯電話・PHSでのご利用は…… 03-5448-3311
- Fax ……………………………… 0466-31-2595

受付時間：
月〜金
9:00〜20:00
土・日・祝日
9:00〜17:00

この説明書は100%古紙再生紙とVOC（揮発性有機化合物）ゼロ植物油型インキを使用しています。
この紙は再資源化できます。

乾電池を入れる

1 **電池入れのふたを開ける。**

2 **乾電池を入れる。**
イラストのように必ず⊖側から先に入れてください。
電池の下にリボンをしいておくと取り出すときに便利です。

3 **ふたを閉める。**

乾電池の持続時間

ソニー単4形（R03）マンガン乾電池使用時（JEITA*[1]）

放送の種類	持続時間	
	イヤーレシーバー使用時	スピーカー使用時
TV*[2]	約32時間	約12時間
FM（TV1-3*[3]）放送	約63時間	約21時間
AM放送	約90時間	約23時間

*1 JEITA（電子情報技術産業協会）規格による測定値です。実際の電池持続時間は使用する機器の状況により変動する可能性があります。
*2 ICF-R50Vのみ
*3 ICF-R40のみ

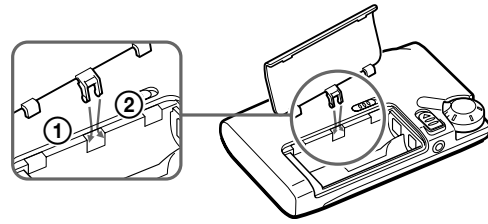
乾電池の交換時期

乾電池が消耗してくると音が小さくなったり、ひずんだりします。その場合は、乾電池を2本とも新しいものと交換してください。

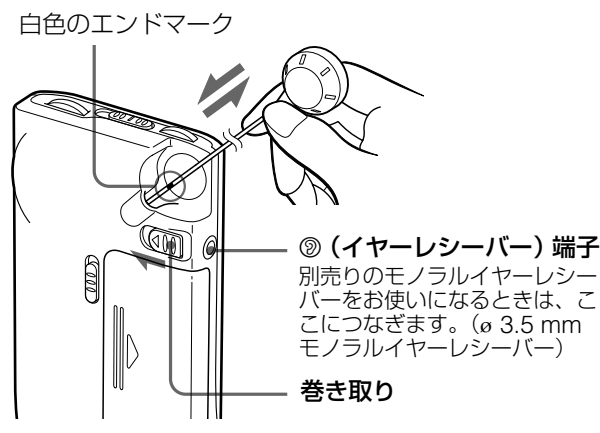
ラジオの電源が突然切れてしまったときは

このラジオは、消し忘れによる電池の無駄な消耗を防ぐため、自動的に電源が切れるように設定することができます（オートパワーオフ機能）。電源が切れるまでの時間は電池残量により異なり、約80～150分です。
電源が切れた後、さらにお聞きになりたいときは、もう一度電源 • オートオフスイッチを「入」または「オートオフ」（矢印の方向）にずらします。
電源 • オートオフスイッチを「入」または「オートオフ」（矢印の方向）にずらしても電源が入らない場合や、パワーオートオフ機能が働いていないのに電源が切れる場合は、電池が消耗していますので新しい電池と交換してください。

電池入れのふたがはずれたときは

電池入れのふたは、開けるときに過大な力を加えると、はずれるようになっています。はずれた場合は、図のように取り付けてください。

イヤーレシーバーを使う

引き出す／巻き取る

引き出すときは、イヤーピース（耳に入れる部分）を強く押さえずに、コードを持って引き出してください。

巻き取るときは、イヤーレシーバーのコードを持ちながら巻き取りつまみを矢印の方向にずらします。イヤーピースが収納部に納まるまで手を添えてください。

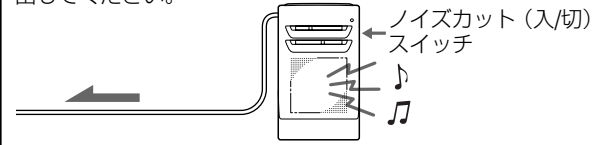
コードが途中で止まってしまったときは

コードを10cmほど引き出して、もう一度巻き取りつまみを矢印の方向にずらしてください。

ご注意
- イヤーピースを持ったまま引き出すと、故障の原因となります。
- コードは、白色のエンドマークが見えたら、それ以上無理に引っ張らないでください。
- イヤーレシーバーを耳につけたまま巻き取らないでください。コードが顔に強く当たることがあります。
- 放送を聞きながらコードを引き出したり巻き取ったりすると、雑音が聞こえる場合があります。
- 手を添えないでいきおいよく巻き取ると故障の原因になります。

受信状態をよくする

TV/FM放送の場合

使用しているイヤーレシーバー（内蔵または別売）のコードがアンテナとして働きます。
内蔵イヤーレシーバーを使用するときは、白色のエンドマークが見えるまでコードを引き出して、できるだけ長く伸ばしてください。スピーカーで聞くときも、同様にコードを引き出してください。

別売りのイヤーレシーバーを使用するときは、Ω端子に別売りのイヤーレシーバーをつなぎ、コードをできるだけ長く伸ばしてください。内蔵のイヤーレシーバーを引き出す必要はありません。

- 乗り物やビルの中では電波が弱められますので窓際でお聞きください。

AM放送の場合

AMアンテナを内臓しているので、ラジオ本体の向きを変えて、もっとも良く受信できる方向にしてお聞きください。

電波が弱く、雑音が気になるときは

ノイズカットスイッチを「入」に合わせてください。

ラジオを聞く

スピーカーまたはイヤーレシーバーで聞くことができます。

1 **電源 • オートオフスイッチを「入」に合わせて電源を入れる。**
パワーオートオフ機能を使用する場合は、電源 • オートオフスイッチを「オートオフ」（矢印の方向）にずらして電源を入れます。
電源 • オートオフスイッチは、自動的に「切」の位置に戻ります。
パワーオートオフ機能を途中で解除したいときは、電源 • オートオフスイッチを「入」の位置に合わせます。

2 **Ω（イヤーレシーバー）/ ◁（スピーカー）切り換えスイッチで Ωまたは◁を選ぶ。**

ご注意
- Ωを選ぶとスピーカーから音は出ません。
- **TV/FM放送を聞くときは、イヤーレシーバーのコードがアンテナとして働きます。スピーカーで聞くときも、イヤーレシーバーのコードをできるだけ長く伸ばしてお聞きください。**
- Ω（イヤーレシーバー）端子に別売りのイヤーレシーバーをつなぐと、内蔵のイヤーレシーバーから音が出なくなります。

3 **バンド切り換えスイッチでTV*[1]、FM（TV1～3*[2]）、またはAM放送を選ぶ。**
*1 ICF-R50Vのみ
*2 ICF-R40のみ

4 **選局つまみを回して聞きたい放送局を選ぶ。**
放送を受信すると同調インジケーターが点灯します。

5 **音量つまみで音量を調節する。**

電源を切るときは

電源 • オートオフスイッチを「切」に合わせます。
パワーオートオフ機能を使用している場合は、電源 • オートオフスイッチを「オートオフ」（矢印の方向）にずらすと電源が切れます。